

とくべつなごちそう

戸田市立戸田東小学校 二年
水野青葉

お母さんの手がくるくるひらひらと目の前でうごきます。たきたてごはんで手のひらはほんのり赤くなっています。手の中でごはんがおにぎりの形になっていくのを、わたしはほわあと口をあけて見ていました。にぎりかためているのに、おにぎりは全体がふっくらしてきたみたいです。

「はい、できたて。」
のりをまいたおにぎりをわたされました。しっかりとぎってあるのに、おにぎりは口に入れるとほろほろくずれます。おいしい海えんが外がわにまぶしてあって、かむうちに口の中はどんどんあまくなってきました。

わたしはこれまで、おにぎりはラップごとにぎるものだと思っていました。べんきょう中に読んだ「おにぎりの作り方」で、手でちよくせつにぎっている絵を見ておどろきました。お母さんに聞くと、

「今ではあまりやらないね。でも、手でにぎる方がうんとおいしいんだよ。」
と言いました。そしてごはんがたけた時に、そのばで作ってみせてくれました。ラップでにぎったのよりさっぱりしていますが、お米がみずみずしくて何こでも食べたくなります。

ふだんラップでにぎるのは、時間がたってぎつきんがはんしょくするのをふせぐためだそうです。小学生になってわたしがおにぎり作りを教わったときにもラップをつかいました。たくさんの人がいて、食べ方やせいけつさについての考えがちがうのはあたりまえです。でも、わたしを大じに思ってくれる人が作りたてをわたしてくれるおにぎりは、外ではあじわえないとくべつなごちそうなんだと知りました。わたしも大人になったら自分の子どもにとくべつなごちそうを食べさせてあげたいです。今どはわたしもあつあつごはんでおにぎり作りにちようせんします。そして家ぞくで食べたいです。